



## 東北大学初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書の設計

著者	趙 秀敏, 今野 文子, 三石 大
雑誌名	東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要
巻	3
ページ	199-205
発行年	2017-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00120955">http://hdl.handle.net/10097/00120955</a>

## 【研究ノート】

# 東北大学初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書の設計

趙 秀敏<sup>1)\*</sup>, 今野 文子<sup>1)</sup>, 三石 大<sup>2)</sup>

1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構, 2) 東北大学教育情報基盤センター

我々は、大学初修中国語教育における、通常の対面授業と授業後のeラーニングを組み合わせたブレンディッドラーニング（Blended Learning；以下BL）に着目し、提案3段階学習プロセスに基づくBL用教科書を開発した。複数の私立大学においては、所期の効果が確認されたが、東北大学における実践の結果は、難易度が不適合という問題とともに、指導法が詳細には提示されていないため、他教員が提案BLを実施することは必ずしも容易ではないという問題も確認された。こうした課題に対し、本研究では、まず、『国際漢語教学通用課程大綱』を参照しながら、東北大学初修中国語の学習目標と学習項目を設計し、次に、提案BLに基づく教科書と指導法の設計手法を明らかにして、実教材の開発を行うものとする。本稿では、このうち、教科書の設計手法を中心に報告する。

## 1. はじめに

本研究は、平成27年度国立大学改革強化推進補助金事業、及び平成28年度東北大学高度教養教育・学生支援機構ビジョン推進経費事業として、「実践的中国語コミュニケーション能力を育成するためのブレンディッドラーニング用教科書及びその指導法と評価方法の開発」を課題とするものである。

これまでに、まず、平成27年度においては、東北大学基礎中国語ブレンディッドラーニング用教科書及びその指導法と評価方法の設計方針を提案した（趙ほか2016a）。また、提案設計方針に基づき、ブレンディッドラーニング用実教科書の設計手法を明らかにするとともに、その研究成果を平成28年度国立大学改革推進事業国際研究推進経費の助成を受けて、国際学会<sup>1)</sup>で発表した（趙ほか2016b）。さらに、平成28年度においては、明らかにした設計手法に基づいて、実教科書の開発に取り組んできた。

本稿は、上記の国際学会において発表した本教科書の設計手法について報告するものである。なお、平成28年度における実教科書の開発については、事業報告として、本機構紀要（第3号）に別途報告する予定である。

さて、日本の大学において、中国語は一般に第二外国語として設定され、また中国経済の発展を背景に、中国語受講者数が多く、第二外国語の中で第一位か第二位に位置している。一方、近年、日本では大学全入時代を迎え、学習意欲の低下や授業外自習の不足が顕著となっている。

このような問題に対し、学習意欲を高め、自習を促進し、学習効果を高めるために、筆者らは、通常の対面授業と授業後のeラーニングを組み合わせたブレンディッドラーニング（Blended Learning；以下BL）に着目し、インストラクショナルデザイン（Instructional Design）理論に基づき、BLによる3段階学習プロセスを提案している（趙ほか2012）（図1）。具体的には、段階1の対面授業において新しい内容を学び、段階2では授業後にeラーニングによる復習を行い、段階3では次回の授業の冒頭で確認小テストと発展学習としてのコミュニケーション言語活動を行う。筆者らは、このような提案3段階学習プロセスに基づき、対面授業用テキストやDVD映像、授業後復習用eラーニング教材、次回の授業用確認小テスト・発展学習などによるBL用マルチメディア教科書『中国語のToBiRa』（趙・富田2013；以下『ToBiRa』）

\*) 連絡先：〒980-8576 仙台市青葉区川内41 東北大学高度教養教育・学生支援機構 xiumin.zhao.e2@tohoku.ac.jp

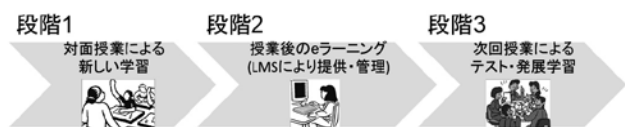


図1 3段階学習プロセス

を開発した。

開発した教科書を用いてBLの実践を行った結果、複数の私立大学の実授業においては所期の教育効果が確認されたが、国立大学である東北大学の実授業においては、一定の教育効果が確認されたと同時に、難易度が不適合という問題も確認された（趙ほか 2016a）。

すなわち、本学における中国語履修者の学習状況を調査した過去（2012年度）のデータによれば、履修者の多くがあまり復習をしていなかった状況が明らかにされているが（張 2012）、これに対し、2015年度にBLを実施した結果では、8割ほどの学習者が復習を行うようになっており、復習状況が大幅に改善されたことが確認された。また、8割ほどの学習者が「BLによる中国語学習は効果がある」、利用したBL用教科書『ToBiRa』で「楽しく学習できた」と肯定的に評価していることや、期末試験においても高い習得度が確認された。一方、『ToBiRa』の「内容は難しかった」と答えた学習者は17.6%にとどまり、多くの学習者にとって本教科書が平易であったことも確認された。

このように、本提案BL及び『ToBiRa』による授業が学習者に高く評価され、学習意欲の向上と維持、授業後自習の促進、基礎学習事項の習得という一定の効果が得られた一方、新たな課題として、今後は教材の難易度に関する改善を行う必要があることがわかる。

また、本書の教授用資料に関しては、提案3段階学習プロセスによるBLの教授モデルなどを示しているが、各課ごとの詳細な指導法、授業用パワーポイント（PPT）資料、及び文化紹介の映像資料などが提示されておらず、そのため、開発者以外の他の教員が提案BLを開発者同様に実施することは必ずしも容易ではないという課題も明らかになってきている。すなわち、難易度において東北大学に適合したBL用教科書とともに、その詳細な指導法と教授資料を開発することが喫緊の課題となっている、といえる。

以上より、本研究の目的は、より実践的中国語能力を高める体系的な中国語教育プログラムの開発・推進を実現するため、東北大学としての初修中国語BLにおける、効果的なBL用教科書及びその指導法を開発し、モデル化を目指すことにある。

そのため、本研究では、明らかにした上記の課題を踏まえ、まず、『国際漢語教学通用課程大綱』（以下『大綱』）を参照しながら、東北大学初修中国語における学習目標と学習項目を設計する。次に、提案3段階学習プロセスに基づき、BL用教科書及びその指導法の設計手法を明らかにし、それに基づいて開発を行うことを目指すが、本稿では、さしあたり特にBL用教科書の設計手法を中心に報告することとする。

## 2. 初修中国語BL用教科書の設計

### 2.1 『大綱』を踏まえた学習目標と学習項目

#### 2.1.1 『大綱』とは

『大綱』すなわち『国際漢語教学通用課程大綱』（2014）とは、中国の孔子学院総部／国家漢辦が、近年中国の経済発展に伴う中国語学習者の世界的な急増、及び各国における中国語教育内容の規範化のニーズに対して、作成したものである。『大綱』は、第二言語習得理論に基づきながら、世界における中国語教育の実践経験をも豊富に取り入れており、また、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）をはじめ、多種類の外国語と第二言語教育大綱の経験と成果を参考にし、日本の中国語教育をも踏まえた、現時点において世界における最も普遍性のある中国語教育共通の大綱となっているといえる。

その上、『大綱』は、教育課程目標の構造的設定を「漢語水平考試」（中国語能力試験；HSK）と関連づけており、これにより、中国語の教材作成、授業指導、能力評価などにおいて、統一的な体系性を構築することが可能となっている。したがって、『大綱』を参照すれば、教材の難易度、すなわち、学習目標に関して、適切な設計や目安となる基準を得ることができ、また入門から上級まで各段階における中国語学習項目を明確にすることが期待できる。

### 2.1.2 本教科書の学習目標

本教科書は、東北大学の中国語授業の現状に対応し、全30回からなる授業用に設定するものとする。すなわち、担当教員1名が使用する場合は、週1コマ通年用、2名が共通教科書として使用する場合は、週2コマ半年用となる。

初級としての本教科書は、『大綱』2級到達レベルに設定した。『大綱』は入門（1級）から上級（6級）まで全部で六つの級が設けられており、このうち2級は初級レベルに相当する。具体的には、2級の学習目標は身近な話題を用いて簡単なコミュニケーションができる初級中国語のレベルで、語彙数が300、文法項目が54となっており、一般的には90分授業30回で習得するレベルとなる。すなわち、『大綱』の2級は、全30回授業に適切なレベルで、また、日常会話と基礎の習得という学習者のニーズにも適合しているといえる（趙ほか 2016a）。

本教科書では、コミュニケーション能力の獲得と多文化理解力を有する国際的なリーダーシップ力の育成という東北大学の外国語教育の理念を踏まえつつ、学習テーマとして、『大綱』が提示している18の話題、及び日本国際文化フォーラムによる『外国語学習のめやす2012』（2012）が提示している15の話題を参照しながら、日本の大学生に身近な話題12と関連する内容項目を策定し（趙ほか 2016a）、その上で、各話題に関する学習到達目標を設計した（表1）。

### 2.1.3 本教科書の学習項目

#### （1）文法項目

本教科書は全体として、「発音編」（6回分授業）<sup>2)</sup>と12課構成の「本課編」（24回分授業）からなる。「本課編」では、12の課が12の話題に対応し、各話題の学習目標を実現するために、『大綱』2級の文法に照らし合わせ、必要な文法事項を設計した。なお、ここでは、「文法に関しては、1課あたり3項目に設定し、12課で36項目とする」という本来の設計方針（趙ほか 2016a）を変更し、1課あたり4項目に設定し、12課で48項目となるよう設計した。これにより、本教科書は、『大綱』2級までの54項目の文法うち、48項目を取り上げることとなっている（表2）。

一方、残りの6項目（表3）の文法については、項目1～2は、日本人学習者にとって理解しやすいものであるため、適宜語彙などとして扱うが、項目3～6は、日本人学習者にとって難しい学習事項であるため、将来開発する予定の続編中級教材の文法項目として扱うこととする。

こうして設計された本教科書は、1課あたりの文法が概ね2項目のみの『ToBiRa』（表4）と比べ、各課の文法項目数が二つ増えることとなる。このうち、一部分の文法は、『ToBiRa』になく本書に新たに追加した項目であり（表5）、そのほかは、『ToBiRa』において文法としてではなく、語彙として取り上げられている項目である（表6）。以上の設計により、本教科書は、『ToBiRa』と比べ、『大綱』2級の文法をほぼ網羅しているとともに、各項目を文法として明確に提示することにより、課題であった難易度のアップに繋げることができ、より高い学習到達度が期待できる。

なお、『ToBiRa』の第8課の「選択疑問文」、第12課の「受身“被”」と「方向補語」は、『大綱』2級に含まれていない文法項目であるため、本教科書では取りあげないこととする。

表1 話題と学習到達目標

	話題	学習到達目標（Can-do）
1	自分と他者	名前、国籍、出身、身分、電話番号について会話できる
2	家と家族	住所、家族構成、年齢、ペット、部屋について会話できる
3	日常挨拶	近況、身なり、天気などについて挨拶を交わすことができる
4	大学生活	日付、時計などの時間表現、大学生活について会話できる
5	趣味娯楽	趣味について会話できる
6	行事	進行中の行動（様子、状態、程度など）について会話できる
7	意向と願望	意向、希望、可能性について会話できる
8	健康	健康、体調、病気、症状、薬について会話できる
9	旅行とアクセス	旅行、交通アクセス、その感想について会話できる
10	日常生活	休日の過ごし方、位置、方向、道順について会話できる
11	自然	天気、気候について会話できる
12	飲食	食事、注文、食習慣について会話できる

表2 各課の文法

課	文法
1 你贵姓?	1. 人称代名詞 2. “是”の文 3. “吗”疑問文 4. 副詞“也”
2 你家在哪儿?	1. 指示代名詞 2. 動詞“在” 3. “有”の文 4. 量詞 (“个, 名, 本, 口” など)
3 身体好吗?	1. 形容詞述語文 2. “呢”疑問文 3. 反復疑問文 4. 程度副詞 (“很, 非常, 真, 太, 最, 更”)
4 几点上课?	1. 名詞述語文 2. 動詞述語文 3. 連用修飾語 (時間, 場所) 4. 連動文 (目的を表す)
5 你的爱好是什么?	1. 疑問詞疑問文 (“什么, 谁, 哪, 几, 多少”) 2. 構造助詞 “的” (所有を表す) 3. 助動詞 “会” と “可以 (許可を表す)” 4. 感情や態度を表す動詞 “爱, 喜欢” ☆ 副詞 “都”
6 你在做什么呢?	1. 副詞 “在” 2. 程度補語 3. 動態助詞 “着” 4. 動詞句 + 名詞
7 你觉得行吗?	1. 助動詞 “想, 要” 2. 意向と願望を表す動詞 “觉得” と “希望” 3. 助動詞 “能” と “可能” 4. 助動詞 “会 (可能性を表す)”
8 怎么了?	1. 語気助詞 “了” (変化を表す) 2. 動態助詞 “了” (発生と完了を表す) 3. “要 / 就要 / 快要 / 快…了” 4. 二重目的語文
9 你是怎么去的?	1. 動態助詞 “过” 2. “是…的” (時間, 場所, 方法を強調する) 3. 特殊疑問文 (“什么时候, 怎么, 为什么”) 4. “多” + 形容詞
10 你家离车站远吗?	1. 前置詞 2. 方位名詞 3. 名詞を場所化する “上, 里” 4. 動詞の重ね型
11 明天下雪吗?	1. “比”の文 2. 兼語文 (“请, 让”) 3. 主述述語文 4. “吧”疑問文
12 吃川菜, 好吗?	1. 附加疑問文 (“怎么样, 好吗, 可以吗, 行吗”) 2. 命令文 (“别, 不要”) 3. “的”フレーズ 4. 複文 (“因为…, 所以…”, “…, 但是 / 可是…”)

表3 文法として本書に取り上げられていない事項

1. 代名詞: “大家, 每”
2. 数詞: “百, 千, 万, 第一, 二 / 两”
3. 連体修飾語: 形容詞 + “的” + 名詞
4. 連用修飾語: 形容詞 + “地” + 動詞 (句)
5. 形容詞の重ね型
6. 離合詞

表4 『ToBiRa』の文法

課	文法
1	1. 動詞 “是” 2. 人称代名詞
2	1. 名詞述語文 2. 疑問詞疑問文
3	1. 動詞 “在” 2. 動詞 “有”
4	1. 形容詞述語文 2. 反復疑問文 ★ “有点儿”
5	1. 動詞述語文 2. “喜欢”
6	1. 副詞 “在” 2. 様態補語 ★ “是…的”
7	1. “了” 2. 結果補語
8	1. 選択疑問文 2. 助動詞
9	1. 前置詞 ★ 経験 “过”
10	1. 持続 “着” 2. 比較表現
11	1. 使役 “让” 2. 無主語文
12	1. 受身 “被” 2. 方向補語

表5 『ToBiRa』になく本書に新たに追加した文法

課	文法
2	4. 量詞 (“名, 本” など)
3	4. 程度副詞 (“非常, 最, 更”)
4	4. 連動文 (目的を表す)
5	1. 疑問詞疑問文 (“多少”) 4. 感情や態度を表す動詞 “爱”
6	4. 動詞句 + 名詞
7	1. 助動詞 “要” 2. 意向と願望を表す動詞 “觉得” と “希望” 3. 助動詞 “可能”
8	3. “要 / 就要 / 快要 / 快…了” 4. 二重目的語文
9	3. 特殊疑問文 (“怎么, 为什么”) 4. “多” + 形容詞
10	2. 方位名詞 3. 名詞を場所化する “上, 里”
11	2. 兼語文 (“请”) 3. 主述述語文 4. “吧”疑問文
12	1. 附加疑問文 (“可以吗, 行吗”) 2. 命令文 (“不要”) 3. “的”フレーズ 4. 複文 (“…, 但是 / 可是…”)

表6 『ToBiRa』において文法としてではなく、語彙として取り上げられている項目

課	文法
1	3. “吗”疑問文 4. 副詞 “也”
2	1. 指示代名詞 4. 量詞 (“个, 口”)
3	2. “呢”疑問文 4. 程度副詞 (“很, 非真, 太”)
4	3. 連用修飾語 (時間, 場所)
5	2. 構造助詞 “的” (所有を表す) ☆ 副詞 “都”
9	3. 特殊疑問文 (“什么时候”)
10	4. 動詞の重ね型
12	1. 附加疑問文 (“怎么样, 好吗”) 4. 複文 (“因为…, 所以…”)

## (2) 語彙数

一方、語彙数に関しては、12課構成の「本課篇」全体として、542語ほどとなっているが、このうち、会話など、読解文以外の主要語彙は382語であり、残りの160語は読解文など参考補助語彙となっている(表7)。これは、会話などの主要語彙が303語、読解文語

表7 語彙数

課	新出語彙					合計
	話題 関連語	会話	文法	聴解	読解 など	
1	8	20	2	4	5	39
2	8	22	8	3	17	58
3	8	15	3	6	8	40
4	8	18	3	3	9	41
5	8	12	6	6	6	38
6	8	13	4	6	24	55
7	8	18	6	1	11	44
8	8	12	2	0	12	34
9	8	14	5	7	7	41
10	8	13	6	3	7	37
11	8	13	5	4	23	53
12	8	16	2	5	31	62
合計	96	186	52	48	160	542

彙が57語である『ToBiRa』と比べ、主要語彙では79語多く、1課あたり6語ほどの増、読解文などの語彙では103語多くなっている。これにより、本教科書は、『ToBiRa』より一定程度難易度が上がる一方、主要語彙の過剰な増加がないことから、無理なく学習をすすめることが期待できる。

さらに、本教科書の語彙では、『大綱』2級300語のうちの286語（95.3%）をカバーしており、残りの14語のうちの一部分、たとえば「对不起，不客气，没关系」なども、「発音編」の挨拶言葉として取り上げることで、『大綱』2級で要求されている語彙力の習得が期待できる。

## 2.2 3段階学習プロセスに基づく各課の構成

本教科書は、BLのための対面授業用教科書として、各課とも、提案3段階学習プロセスに基づき、段階1の新しい学習及び段階3の発展学習からなる。なお、段階2の授業外のeラーニング復習用教材については、本研究と並行して別の研究課題として開発に取り組んでいるため、詳細は別途報告する予定であり、ここでは省略する。

各課は、「語彙、会話、文法、4技能、確認、発展」から構成されている（図2、表8）。これは、これまで一定の学習効果が確認された『ToBiRa』の内容構成（表9）を踏まえつつ、レベルアップを図るため、

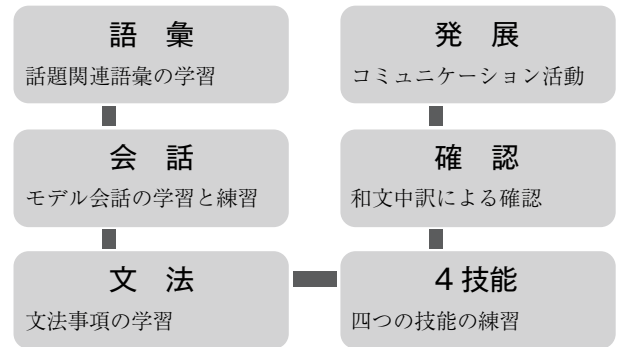


図2 各課の内容構成

表8 本書各課の構成

ページ	内容	形式（分量）
1	語彙	意味確認→音読→応用練習（8語）
2	会話	会話及びその模擬練習（4句×3）
3	文法	文法事項の解釈（4項目）
4～5	4技能	（各練習約3～6問）
6	確認	和文中訳（6問）
	発展	自己紹介やインタビュー、寸劇発表などのコミュニケーション活動

表9 『ToBiRa』各課の構成

ページ	内容	形式（分量）
1～2	会話	前半・後半に分ける（約4句×2）
	基本練習	会話文の一部を言い換える（2問×2）
3	4技能	（各練習約3問）
4	文法	文法事項の解釈（2項目）
	確認問題	1. 語の並べ替えや穴埋め（2問） 2. 和文中訳（4問）

文法項目及び学習内容を増やすと同時に、効果的に学習できるように、着実に一步步学習を進める内容と形式に設計されたものである。

具体的には、各課において、まず、話題とともに学習到達目標（Can-do）を提示し、この課の学習を通してどのようなコミュニケーション言語活動ができるようになるのかを明確に示し、それから次に示す順序で各学習と練習に入る。

以下では、各課構成の各内容について、具体的に示してゆく。

### (1) 語彙 (8 語)

この学習内容は、『ToBiRa』にはなく、本書において新たに設けたものである。ここでは、話題に関する語彙を導入するとともに、語彙の意味、発音及び語彙を使用したフレーズや文を学習する。その練習形式は、以下ようになる。

#### ①「中国語で何といますか」

まず、イラストに対応する語彙 (漢字とピンイン) を確認し、語彙の意味を学習する。

#### ②「読みましょう」

次に、語彙の発音を聞いて、音読する。

#### ③「聞いて書きましょう」

最後に、語彙を用いたフレーズや文、ミニ会話を聞き取り、その中の語彙を書き取ったり、選択したりして、語彙を学習する。

以上の三つの練習を通して、話題に関連する語彙を学習し、次の学習内容である「会話・練習」にスムーズに入ることが期待できる。

### (2) 会話 (4 句×3)

ここでは、話題に関する場面が異なる三つのミニ会話で提示されるとともに、各会話の流れにそって、学習者が自身のことを話すという練習も設計されている。また、各会話は、聞き取りやすく、覚えやすくするために、その長さを2往復4句のみとした。こうした設計により、学習者が会話のモデルを学習し、さらに、それを用いてスムーズに自分たちのことについて話せるようになることが期待できる。

### (3) 文法 (4 項目)

本教科書では、語順言語とされている中国語の文法事項について、理解しやすく、応用できるようにするために、『ToBiRa』の設計方針を受け継ぎ、各文法の文型を構造的に提示するとともに、簡潔な説明とシンブルな例文も提示する。

### (4) 4 技能 (各練習約3～6問)

ここでは、『ToBiRa』と同様に、聞く、話す、読む、書くという四つの技能の練習を通して、学習事項を練習し、習熟する。

まず、聞く練習では、話題に関する様々なミニリスニングを行い、学習事項を意識化させると同時に、文の意味を聞き取る練習をさせる。そのため、ここでは「聞いて選びましょう」などのタスクが設計されている。

次に、話す練習では、学んだ学習事項を用いてコミュニケーションできるように、ペアやグループによる会話練習が提供されている。

読む練習では、学習事項への理解を高め、読解力をつけさせるために、カード、メモ、メール、日記、散文など、学習者にとって身近な現実の内容に関するミニ読解文が用意されている。

最後の書く練習では、話題に関する身近なことについて書いてまとめるタスクが設計されている。例えば、自分の趣味、家族、旅行、eメール、欠席届などである。これにより、書く技能を習得させると同時に、学習事項の定着を図る。

### (5) 確認問題 (約6問)

上記の学習と練習の後、段階1の新しい学習として、最後に学習事項の理解度を確認する。そのために、ここでは、和文中訳という練習問題が設計されている。

### (6) 発展学習

ここでは、段階3の学習として、段階1の新しい学習及び段階2の授業外のeラーニング復習に続き、次の授業の冒頭で、確認小テストを行った後、発展学習としてのコミュニケーション言語活動を行う。活動の内容は、学習事項を用いた自己紹介やインタビュー、寸劇発表などとなるが、各課の話題に沿って、主に上記の書く練習と関連づけられているため、限られた時間内でも、比較的まとめ易い内容で発表できるようなタスクとしている。

## 3. まとめ

本研究は、東北大学の初修中国語BLにおける、効果的なBL用教科書及びその指導法と評価方法の開発、モデル化を目指すものである。これまで、筆者らは、『大綱』及び提案3段階学習プロセスに基づき、BL用教科書及びその指導法と評価方法の設計方針を明らかにした。本稿では、設計方針を踏まえ、BL用

教科書の設計手法を中心にして報告した。

今後の課題としては、明らかにした設計手法に基づき、実教科書及び指導マニュアルを開発するとともに、実証実験を通してその有効性を検証してゆきたい。

## 注

- 1) 第二屆國際漢語教學研討會——國際文憑課程 (IB) 理念與語言教學 (The Second International Conference on Teaching Chinese as a Second Language —— The IB Philosophy and Chinese Language Teaching), 2016 年 5 月 28 日 (土), 於: 香港教育學院大埔校園。
- 2) 発音編は、基本的に『ToBiRa』の当該部分を流用する予定としている。

## 謝辞

本稿は、平成28年度国立大学改革推進事業国際研究推進経費の助成を受けたものである。

## 参考文献

- 孔子学院总部／国家汉办. 2014. 国际汉语教学通用课程大纲 (修订版). 北京语言大学出版社.
- 日本国際文化フォーラム. 2012. 外国語学習のめやす 2012: 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言.
- 吉島茂・大橋理枝 (翻訳). 2004. 外国語教育Ⅱ外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠. 朝日出版社.
- 張立波. 2012. “東北大学の初修外国語の中国語学習に関する基礎調査について”. CAHE TOHOKU Report 39. 東北大学の初修外国語教育, 41-56.
- 趙秀敏, 今野文子, 朱嘉琪, 稲垣忠, 大河雄一, 三石大. 2012. “第二外国語としての中国語学習のためのブレンディッドラーニングの開発と実践”. 教育システム情報学会誌. Vol. 29, No. 1, 49-62.
- 趙秀敏, 富田昇. 2013. 中国語の ToBiRa: スマートラーニング対応教材. 朝日出版社.
- 趙秀敏, 張立波, 上野稔弘, 今野文子, 三石大. 2016a. “初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書及びその指導法と評価方法の設計方針”. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要. 第2号, 281-295.
- 趙秀敏, 今野文子, 三石大. 2016b. “日本国立大学初級

漢語 Blended Learning 教材及其教學法的設計”. 第二屆國際漢語教學研討會——國際文憑課程 (IB) 理念與語言教學.